



小郡市立大原中学校 令和8年10月 2日 第11号

大原中学校だより

校長 末崎 謙次



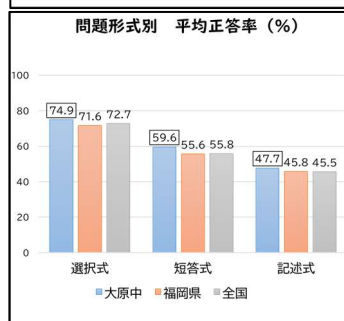
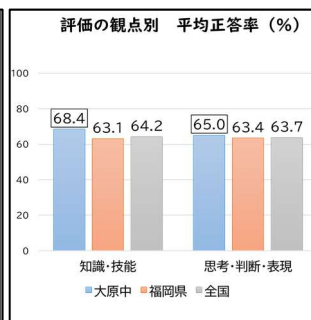
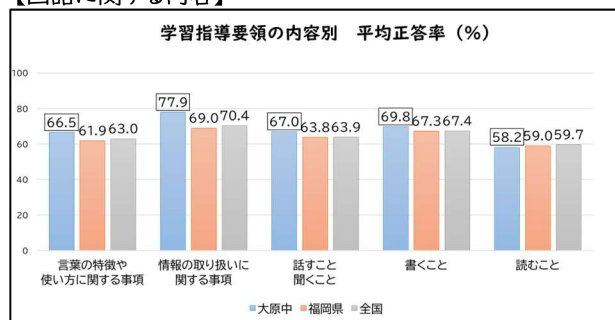
【学校教育目標】自走と共生に必要な資質・能力を身につけた生徒の育成

全国学力学習状況調査の結果について

文部科学省が中学校3年生を対象に行った「令和8年度全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします。本調査は、子どもたちの学力や学習状況を把握し、その結果を授業改善や学習支援に生かすことを目的としています。

調査内容は①教科に関する調査(国・数・英)②学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査となっています。今回は国語、数学についてお知らせします。

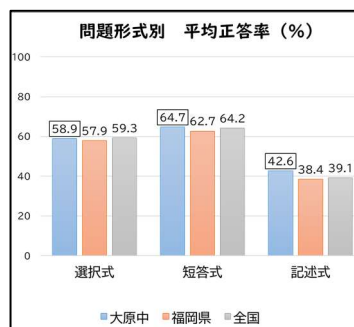
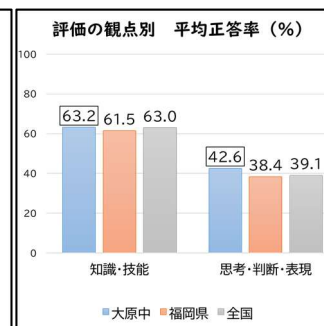
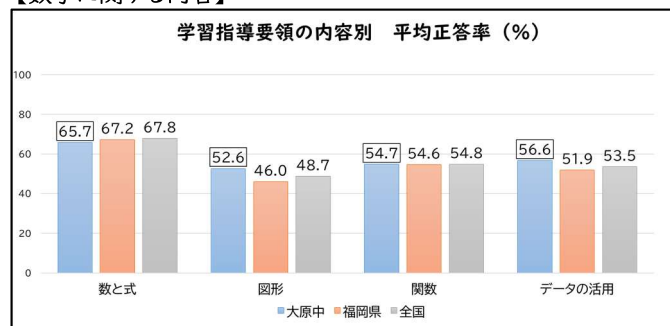
【国語に関する内容】



国語では、平均正答率において、全国を2.1ポイント、県を3.0ポイント上回る結果となりました。

- 「情報の取り扱いに関する事項」の正答率は77.9%で、全国平均(70.4%)を大きく上回っています。必要な情報を整理・分類する力は非常に高いと言えます。
- 一方で、「読むこと」の正答率は58.2%となり、全国平均を下回る結果となりました。文章の背景や登場人物の心情を深く読み解く読解力において、課題が見られます。
- 問題形式別で見ると、選択式(74.9%)に比べて記述式(47.7%)の正答率が大きく下がっており、自分の言葉で表現する力にはまだ課題が見られます。

【数学に関する内容】



数学では、平均正答率において、全国を1ポイント、県を2ポイント上回る結果となりました。

- 「図形」の平均正答率は52.6%と、全国平均を大きく上回っています。空間を捉える力や、証明のパターンを理解する力に優れていることが伺えます。
- 評価の観点別で見ると、「知識・技能」は63.2%と健闘していますが、「思考・判断・表現」になると42.6%まで落ち込んでしまいます。これは、問題形式別の「記述式」の低さとつながっています。単に公式を覚えるだけでなく、「なぜその解き方になるのか」を論理的に説明する力が、今後の課題です。

【今後に向けて】

- 答えを求めるだけでなく、解き方や考え方の理由を説明する場面を増やし、「なぜそうなるのか」を考える力を育てます。
- 図・式・言葉を使って、自分の考えを分かりやすく表現する活動を充実させます。
- 友達の考え方を聞いたり、自分の説明を見直したりするなど、友達の考えと比べ、考えを深める活動を設定し、根拠をもって説明する力を育てます。

教育条件整備全体学習会へのご参加ありがとうございました

9月17日(木)19時より大原中学校体育館にて、「教育条件整備要求全体学習会」を開催しました。大原中学校区では、PTAのご協力と地域のみなさんのご理解をいただき、毎年多くのご署名をいただいています。昨年度は、大原校区で5,415筆、小郡市全体では21,794筆の個人署名と275の団体署名をいただきました。大変お忙しい中、地域代表委員さんを中心に、みなさまに取り組んでいただいたことに心から感謝しております。

この署名活動により、学級数に応じて決まる教職員定数に加え、多くの教職員の加配措置が実現しました。また、高校奨学金制度の改善、学び場支援事業の充実にもつながっています。本年度も10月16日(金)まで教育条件整備のための署名活動を行う予定です。

すべての子どもたちが自分の夢や目標に向かって自己実現できるよう、ご協力よろしくお願いいたします。

【今後に向けて】

- 構成や表現の効果を工夫して、文章を書くことができるよう、具体的な課題を設定し、自分の体験を交えながら、文章にまとめて発信する活動を充実させます。
- 目的や意図に応じて、根拠を明確にしながら考えをまとめ、交流したり書いて発表したりする活動を充実させます。